Zoom in Human Security
人間の安全保障

「援助コミュニティー全体に人間の安全保障の考え方を」

2004年9月～06年3月まで、援助協調が活発なボリビアで、JICAの企画調査員として援助協調の業務に携わった塚本明広さん。世界的な潮流である援助協調と「人間の安全保障」はどんな関係があるのだろう？

JICA企画調査員
塚本 明広
Tsukamoto Akihiro

世銀との合同セミナー

ボリビアでは世界銀行がリーディングドナーとなって、援助の調和化が進んでおり、日本も世銀との関係強化を重視しています。近年、ボリビアに対する世銀の援助方針が変わりつつあり、昨年発表の『貧困評価』には、経済成長と富の公平な分配が重要だと提言されています。これは、1980年代の構造調整政策でマクロ経済安定化に注力してきたことにより、貧困層の脆弱性が放置されて貧富の差が拡大し、かえって社会不安を招いたという反省が表れているといえます。

富の不公平な分配や貧困層の脆弱性は人間の安全保障と深くかかわることから、世銀の新しい政策提言と「人間の安全保障」を掲げるJICAの援助方針との整合性を高める取り組みが昨年から始まり、JICAは世銀と合同で中央・県レベルと市町村レベルでセミナーを開催しました。世銀は『貧困評価』の政策提言を、JICAは人間の安全保障の考えを広く普及するのが狙いです。

中央・県レベルは省庁や中小企業などが対象で、いかに貧困層に裨益する形で地域産業を伸ばすか、貧困削減に役立つ経済成長とはどういうものか、といった政策的な内容が中心でした。

市町村レベルは役場の職員や住民が対象です。人間の安全保障は「ダウンサイドリスク（状況が悪化する危険）」を注視していますが、世銀の調査を踏まえれば、収入が不安定なことがダウンサイドリスクに結びついているようです。自然災害や地域経済悪化などの脅威によって住民が危機に陥らないようにするには、人々が自らの資源を活用して安定的に生活できる手段を確保することが必要です。そこでセミナーでは、地域の産品を確実に売る方法などについて参加者と一緒に考えました。それは彼らのエンパワーメントにもつながります。

人間の安全保障と財政支援

このように人間の安全保障の概念を、世銀とだけでなく、相手国や他ドナーを含む援助コミュニティー全体で共有することが重要です。JICAは、人間の安全保障の考え方に基づき、人々に直接裨益する援助を重視していますが、その現場型の支援は、マクロ経済や財政支援を重視する他ドナーには理解されにくいことがあります。また、援助効果向上を目指す調和化が進むと、援助コミュニティーの中で、現場型援助は効果的でないといった考え方も出てきます。しかし、人間の安全保障の考え方は、従来の財政支援などからも取り残されがちな脆弱な人々、より困難な状況にある国や地域の人々が直面する問題の改善に取り組むことなくして、国際社会全体の平和と発展はあり得ない、という認識に立っています。

今の援助潮流はマクロ経済政策運営重視の傾向にありますが、脆弱な人々への直接的な支援も並行して進めていかなければ、社会不安をなくすことはできないと思います。また、一般的に財政支援は政府・市民社会の充分な能力を前提にしていますが、人間の安全保障の考え方は、地域社会・人々のエンパワーメントと政府の能力強化の双方を通じて人々が安心して暮らせる社会づくりを目指すものであり、財政支援の効果の向上にもつながるでしょう。そのためには多様なアクターの協力が重要です。このような考え方が援助効果の向上の理念としてドナー間で共有されれば、より脆弱な人々に届く支援を実現できると思います。